

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、復興需要や経済政策による民間消費を背景に緩やかな回復の兆しがみられたものの、欧州債務問題の再燃や海外景気の減速により円高圧力が強まる中、厳しい雇用環境の改善は進まず、景気の先行きは不透明な状況で推移しました。

調剤薬局・介護業界におきましては、平成24年4月に調剤報酬改定、薬価改定、介護報酬改定が同時に実施され、その対応が急がれる状況にあります。

このような中、当社は主力とする調剤薬局事業において従来どおり安全性を最優先とした店舗運営を行いました。ヘルスケア事業では介護付有料老人ホームの運営に加え、平成24年3月に訪問介護事業会社(神戸市)を取得し、訪問介護事業及び居宅介護支援事業に参入しました。また、医薬品卸事業においてはジェネリック医薬品の販路拡大に取り組みました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高5,104百万円(前年同期比5.2%増)、営業利益301百万円(前年同期比10.3%減)、経常利益280百万円(前年同期比12.2%減)、四半期純利益346百万円(前年同期比104.6%増)となりました。なお、四半期純利益の大幅な増加は、投資有価証券売却益331百万円によるものです。

セグメントの業績は次のとおりであります。

① 調剤薬局事業

調剤薬局事業におきましては、薬価引下げの影響を受けましたが、処方箋の長期化により処方箋単価が前年を上回りました。売上高は4,613百万円(前年同期比3.4%増)、営業利益は353百万円(前年同期比12.7%減)となりました。

② ヘルスケア事業

ヘルスケア事業におきましては、介護付有料老人ホーム(6施設)の入居者が増加したことにより、売上高284百万円(前年同期比39.7%増)、営業利益41百万円(前年同期比267.4%増)となりました。

③ 医薬品卸事業

医薬品卸事業におきましては、厚生労働省が示しているジェネリック医薬品の数量シェアを2012年度に30%以上とする数値目標を受けて積極的な営業活動を推進したことにより、売上高188百万円(前年同期比11.6%増)、営業利益25百万円(前年同期比61.3%増)となりました。(内部売上高を含む売上高は279百万円となり前年同期比16.5%増。)

④ 不動産事業

不動産事業におきましては、安定した賃料収入により売上高18百万円(前年同期比1.8%減)、営業利益10百万円(前年同期比0.2%減)となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。